

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホームふくろうの森 1Fユニット		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319番地15		
自己評価作成日	令和2年9月29日	職員10人中8人	評価結果市町村受理日 令和2年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いを聞き、寄り添ったケア・より良いケアに取り組んでいる。職員の年齢幅は広いが、報告・連絡・相談、気配り・目配り・心配りを大切にし、チームでケアに取り組んでいる。山間地だが、国道沿いで各地からの交通の便が良く、医療連携がとれ24時間対応可能である事、消防署や病院が近くにある事で医療面での安心がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の一員として清掃や行事など積極的に参加し、防災訓練では地域の人の意見を取り組みに活かすなど、良好な関係を築き利用者の生活を支えている。コロナ禍の中、活動の制限がある中でも利用者との笑顔につなげたいと編み物や塗り絵、消毒を兼ねて手すりやテーブルを拭くなど利用者一人ひとりの力を活かせる工夫をしている。管理者は職員の力量のアップやチームワークを大切にし、継続して必要な支援ができるよう意識的に取り組んでいる。新たに資格取得を目指して取り組んでいる職員もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が目につく所に掲示してあるが、目指す所が共有できているかは個人差があり十分ではない。	理念はホールや休憩室など目につくところに掲示してあり、復唱をして意識付けを図っている。一人ひとりの職員やユニット毎にも1年間の目標を掲げ、振り返り実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアなど地域の行事には可能な範囲で積極的に参加し、交流の機会を持っていたが、コロナの影響で現在はできていない。	地域の行事に積極的に参加したり、ボランティアの協力を得て交流を図っている。今年度はコロナの影響で面会や交流を制限している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェなどで地域の人々に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告だけでなく、スライドショーで日頃の様子などを見てもらい、意見を頂いている。頂いた意見・改善点は必要に応じすぐに対応している。	今年度は職員と地域包括の参加で開催している。これまで通りスライドで日頃の様子を伝えたり、意見交換を行いサービスに活かせるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃の連絡だけでなく、運営推進会議や地域ケア会議を通して連携をとっている。	日頃から実情を伝えたり、会議を通して連携を図っている。新たにコロナ対策連携会議で協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修・資料配布など学ぶ機会はあるが、職員の理解には差がある。日中の安全のために玄関を施錠する時間帯がある。	施設内研修で理解を深め、職員目線での言葉使いや行動を制限しないなど、見守りながら利用者に合わせたケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修で学ぶ機会があり、言葉遣いから気を付け、防止に努めているが、理解が十分ではなく職員に差がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修で学ぶ機会があるが、活用できるよう支援しているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約担当者が時間をかけ、なるべく分かりやすいように行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で意見、要望を伺っている。すぐに改善できる事に対応している。現在はコロナの影響で思うようにできていない。	日頃から意見を言いやすい関係作りに努めて、意見や要望に対応するようにしている。現在面会はガラス越しとし、外出も控えてもっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在全体会議は実施していないが、意見や提案があれば早期に対応している。	代表や管理者はそれぞれのユニットの意見を聞くことに努め、職員の意見を業務改善などにつなげている。毎月ユニット毎に話し合う機会があり、気づきがあればその都度話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や職員の事情を考慮した労働時間など子育て世代、介護世代でも働きやすい職場の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に一人ひとりの希望を募る方式で外部研修の機会を持ち、また内部研修を計画的に実施してレベルアップを期待している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェや研修時の情報交換などからケアに取り入れたりする事もあるが、現在は機会が減っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報から確認し、安心して生活できるよう、時間をかけ本人と1対1で関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	遠方の家族への電話などで話を伺い、まずは話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態や、家族も含めた状況を考慮した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の割合が増えてくると、共に過ごし支えあう立場の関係が崩れてしまっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時の連絡や家族からの要望にはできる限り対応しているが、本人と疎遠になっている家族様もあり、関係づくりは不十分である。コロナの影響で現在は面会を制限している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブや地域のイベントへの参加など支援に努めているが、一部の利用者に限られており十分とは言えない。コロナの影響で最近では電話程度の支援しかできていない。	馴染みの人や場所、地域との関係が途切れないよう、現在、ガラス越しでの面会や電話による支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見ながら、席の配置や外出などのメンバーを考えている。1人で過ごされる時間が長い方もあり、支え合えるような支援はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後でも病院や出先などで様子を見たり、言葉をかける事があるが、まれである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や家族との相談などから検討している。意思疎通が困難な場合は表情や生活歴などから検討するよう努めている。	日頃の関わりや家族から話を聞いて思いの把握に努めている。困難な場合はゆっくりと対応し、表情やしぐさなどから検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前事業所や本人、家族からの情報をまとめ、フェースシートを作成し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を記録し、日々の変化を見逃さないよう注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時のミーティングや月1回担当者を中心にモニタリングを実施している。そこで本人、家族の思いや職員の意見を取り入れている。	担当者を中心にモニタリングを行い、利用者や家族の意見を取り入れ、必要な場合は医療関係者とも話し合い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の過ごし方記録の他、必要時個別記録に記入し、チームで情報を共有しているが、伝わっていない事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスの範囲内と思われる取り組みが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の方から情報を頂き、活用する事もあるが、把握は不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の診療に加え、かかりつけ医とは24時間相談できる医療体制である。	毎月2回の訪問診療があり、利用者や家族の希望によるかかりつけ医と常に連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気付きや様子を記録に残している。法人内に看護師がおり、気になる事はすぐに相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に情報提供を行い、病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約担当者が入居時に説明している。必要時に方針の確認をしながら支援を行っている。	入居時に事業所の方針やできることを伝えて、必要に応じて関係者と話し合い、方針を確認しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署による救急法の指導を学ぶ機会を持ち、基本的な事はできるようにしているが、全職員とは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1度、地域住民参加(今年はコロナにより例外)の避難訓練を実施しているが、全職員とは言えない。	例年地域の参加協力を得て避難訓練を行っている。今年度の訓練の振り返りでは、布担架の使用法の検討が必要と考えている。入居者の写真や備蓄品の点検も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉遣いや対応を心がけ接している。	一人ひとりに合った言葉使いや対応を心がけ、プライバシーを損ねないよう支援している。気づきがあった場合は職員間で声をかけあい対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう働きかけているが、業務の流れとして職員の都合でのケアになる事がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、その日の様子に応じて対応しているが、職員優先になっている事もあり十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用したり、好みの服に着替えたりされる利用者もあるが一部の方に限られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼や嚥下、その時々状態により食事形態を考えている。片付けは利用者の日課になっているが、準備や食事は一緒に行っていない。	咀嚼や嚥下状態、箸を持つ力など利用者に合わせて食事形態を工夫している。片付けなど、できることを行えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師により専門的に支援している。食事や水分の摂取量を記録し、一人ひとりの摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施している。週1回の訪問歯科との連携もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めのトイレへの誘導、介助を行っているが、排泄の失敗やおムツの使用を減らす事にはつながっていない。	一人ひとりの状態に合わせ声かけをしながら、おむつ使用の人も昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取、体操など予防に取り組んでいるが、下剤を使用している事が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合になりがちだが、計画的に行っている。本人に声をかけ、無理強いせず入浴されている。	希望やタイミングをみて入浴できるよう声かけをしている。利用者の状態で夕食後以降も入浴できるよう個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほぼ決まった時間にご自分で、介助で入室されている。安眠できるよう部屋の温度、明るさなども調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個別ファイルに入れ、必要に応じていつでも確認できるようにしているが、副作用までは頭に入っていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事は嬉しい、ねぎらいや感謝を伝えるようにしているが、支援はご自分から要望や意見を言われる一部の方に限られている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	過ごしやすい気候の時期は外気浴やドライブを楽しんでいるが頻度は多くなく十分とは言えない。現在はコロナの影響で外出の支援はほとんどできていない。	コロナの影響でこれまでの外出やドライブ、家族との面会も制限されているが、外気に触れるよう周囲を散歩するなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持されている利用者もあるが、ほとんど事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻度は少ないがお礼の電話などされるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、壁に飾り付けをしたりして居心地の良い空間作りに努めている。また、温度や湿度にも気を付けている。	利用者にとって不快感や混乱につながるものは取り除くよう心がけ、季節の花を生けたり、飾りつけなど工夫している。空調も管理して居心地よい環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、自由に座ってくつろげたり、好きな場所に座ってお話しされたりできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れた物などを持ち込まれ、居心地よく過ごせるようにしている。	使い慣れた好みの物を持ち込み、安全面を考慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を分かりやすく、トイレはなるべくご自分で安全にできるよう、手すりや表示を付けるなど工夫している。		